

### ◆短角種 仮死状態の子牛には人工呼吸が効果的

日本短角種は、2月から3月は分べんの最盛期ですが、子牛が仮死状態で生まれてくる場合があります。「あれ、変だな。息してないぞ」「足バタバタさせているけど何かおかしいな」。難産などで獣医師が分べんさせたのなら、適切な処置がとれますが、そうでない場合だと、電話しても間に合わないことが多くあります。

そこで畜主の出番です。人工呼吸（マウスツー・マウス）をしてください。簡単です。子牛の口に両手をあてて息が漏れないようにして、思いっきり強く息を吹き込むのです。何回も何回も。速さは畜主が普通に呼吸する間隔です。子牛が少しずつ動き出したり、呼吸をし始めたりしたら大成功。子牛の喉（のど）のゴロゴロ（胎水を飲んだ音）は、あまり気にしないでいいです。

しかし、生まれたとき、眼が白く濁っている牛については、残念ながら助かる見込みはありません。